

令和4年度東広島市ひきこもり 実態把握調査報告

令和5年3月

東広島市

健康福祉部地域共生推進課

目次

I 調査概要.....	1
1 はじめに.....	1
2 調査対象者・調査方法.....	1
3 ひきこもりの定義.....	2
4 回収状況.....	2
5 調査票.....	2
6 その他.....	2
II 民生委員児童委員の調査結果.....	3
III 福祉専門職の調査結果.....	16
IV 調査結果から見える課題等(単純集計結果から).....	28
V 調査結果から見える課題等(クロス集計結果から).....	33
VI 巻末資料.....	36

I 調査概要

1 はじめに

本市では、「第3次東広島市地域福祉計画」に基づき、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けた施策を推進しています。

本調査のテーマとなった「ひきこもり(8050問題を含む)」は、現代社会を象徴する生きづらさとして関心を集めています。その一方で、ひきこもりに対する自己責任論や偏見などは存在しており、当事者やその家族などが誰にも相談できず、悩みを抱え込んで地域から孤立してしまう状況もあります。

この調査をとおして、当事者やその家族に長期的に寄り添った支援(伴走型支援)や、個別支援を実施する際の情報連携・多機関連携の重要性が明らかになってきました。東広島市では、本調査で得られた情報を支援策に反映し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

本調査は、民生委員児童委員の皆様や、福祉事業所等の皆様など多くの方にご協力頂きました。活動や業務でお忙しい中、本調査にご協力頂いたことに対して、心から感謝申し上げます。

2 調査対象者・調査方法

調査対象者と調査方法は、次の通りです。

区分	調査対象者	調査方法
民生委員児童委員調査	東広島市内の民生委員児童委員 308人 (令和4年7月時点)	調査票を会議等の場で直接配布、郵送により回収。
専門職調査	東広島市内の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員、障害者(児)相談支援専門員、地域包括支援センター等といった事業所に所属する専門職	郵送により調査票を送付、返信用封筒により回収。

3 ひきこもりの定義

この調査における「ひきこもり」の定義は、概ね15歳から64歳までの方で、社会的参加(仕事、学校、家庭以外の人との交流など)ができない状態が概ね6か月以上続いていて、次のいずれかに該当する方を指すこととして、回答者に調査票を記載して頂きました。

- ① 自宅にひきこもっている状態
- ② 時々買い物などで外出することがある

※重度の障害、疾病、高齢等の影響により外出が困難な方は除きます。

4 回収状況

本調査の有効回収数・回収率は以下のとおりです。

区分	配布数	回収数	回収率
民生委員児童委員調査	308人	229人	74.4%
専門職調査	69事業所	47事業所	68.1%
個別調査	—	150人	—

※専門職調査は事業所単位での調査票の送付・回収を行いました。また、事業所ごとに最大5部の調査票を送付し、150人の専門職から回答をいただきました。

5 調査票

民生委員児童委員及び専門職1人につき次の調査票を1枚ずつ(計2枚)配布して調査しました。実際の調査票は巻末(民生委員児童委員:36~38頁、福祉専門職:39~41頁)に記載しています。

調査票の種類	枚数	内容
実態調査票	1枚(A4サイズ)	全員に回答頂く調査票です。
個別調査票	1枚(A3サイズ)	実態調査票において、「直近2年以内に自分が担当する地域や、支援対象者の世帯にひきこもり状態にある方が「いる」と回答した方」のみに記載して頂く調査票です。

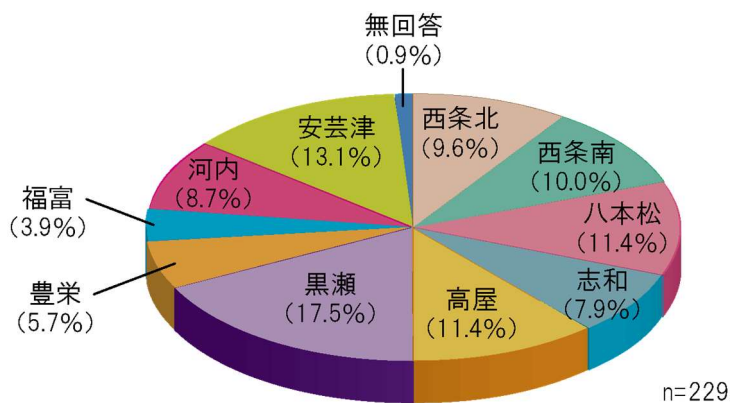
6 その他

本報告書において、グラフ等に示す「n」はサンプル数を意味しています。

Ⅱ 民生委員児童委員の調査結果

担当地区

[あなたの担当する地区名を○で囲んでください。(単回答)]

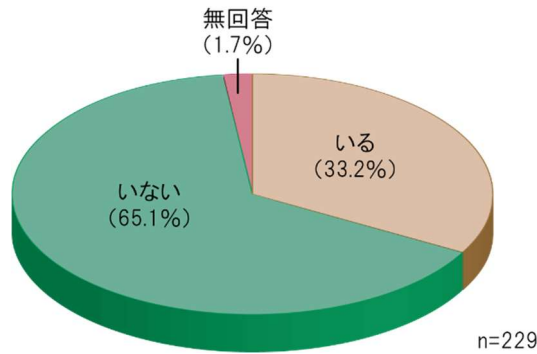


	人数(人)	割合(%)
全体	229	100
西条北	22	9.6
西条南	23	10.0
八本松	26	11.4
志和	18	7.9
高屋	26	11.4
黒瀬	40	17.5
豊栄	13	5.7
福富	9	3.9
河内	20	8.7
安芸津	30	13.1
無回答	2	0.9

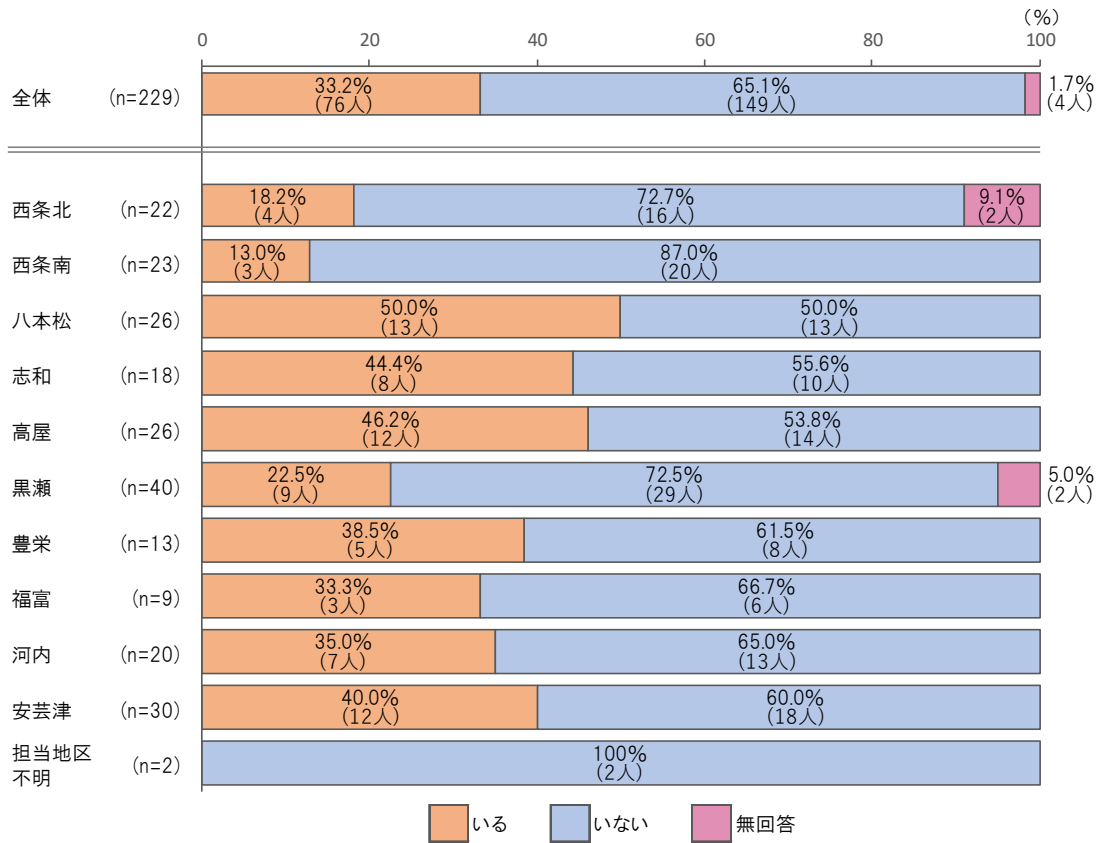
ひきこもりの人の有無

[直近2年以内で、あなたの受け持ち地域で、ひきこもりの方はいますか。(単回答)]

[全体]



[地区別]

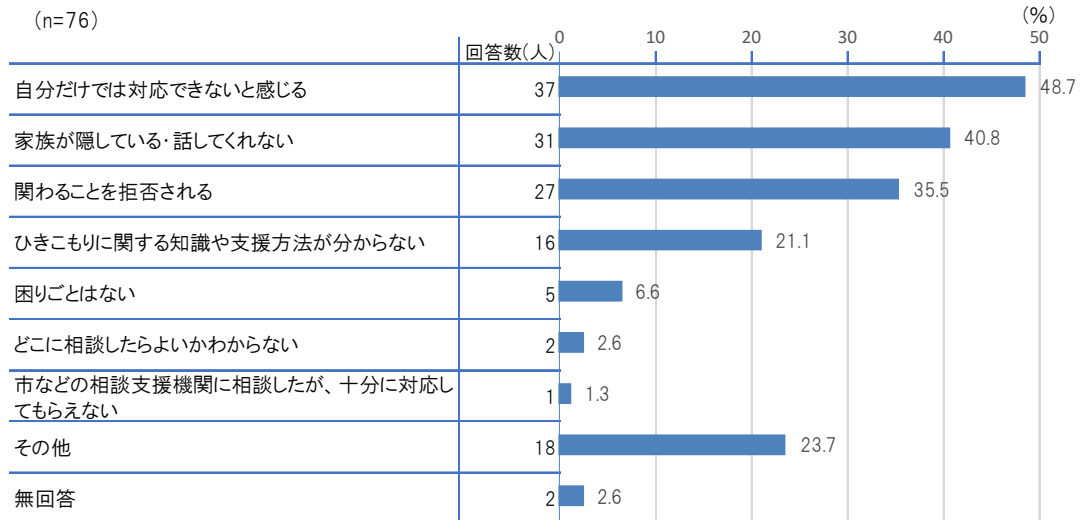


ひきこもりの人への支援で困っていること

[ひきこもりの方への支援で困っていることはありますか。(複数回答)]

※「直近2年以内で、あなたの受け持ち地域で、ひきこもりの方はいますか。」の項目で「はい」と回答した方のみ回答。

ひきこもりの人への支援で困っていることでは、全体で見ると「自分だけでは対応できないと感じる」が48.7%と最も高く、次いで、「家族が隠している・話してくれない」(40.8%)、「関わることを拒否される」(35.5%)となっています。



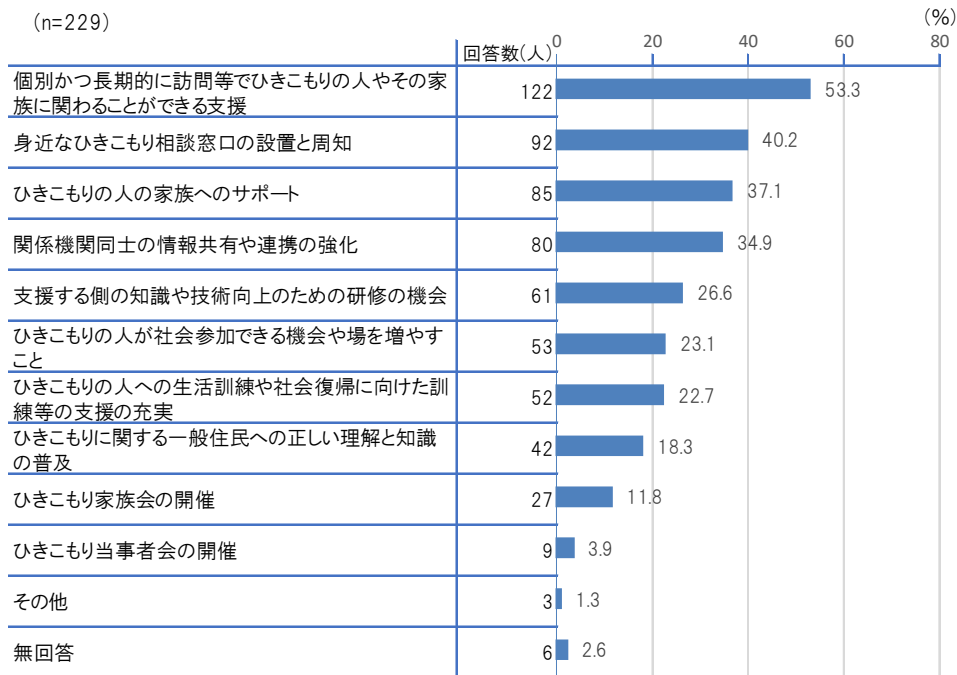
〔「その他」の内訳〕

ひきこもりの人への支援で困っていること	人数
本人と接点が持てないため、把握ができない	6人
見守りをして様子を伺っている	2人
家族から支援依頼がない	1人
本人から詳しいことを聞くことができない	1人
どのように接したら良いか分からない	1人
本人へ声掛けをするが心を開いてもらえない	1人
地域内で連携が取りにくい	1人
ひきこもりの支援を行う側の高齢化問題	1人
本人へ相談機関を紹介して、相談しようとするまでに時間がかかり、結局相談をしていない状況	1人
市などの相談機関へ相談したが、状況変化なし	1人
児童委員が関わっているため、把握できない	1人
警察沙汰になった	1人

ひきこもり等に関して必要と思われる支援策

[全員にお聞きします。ひきこもり等に関する支援策で必要と思われる項目を3つまで○で囲んでください。(複数回答)]

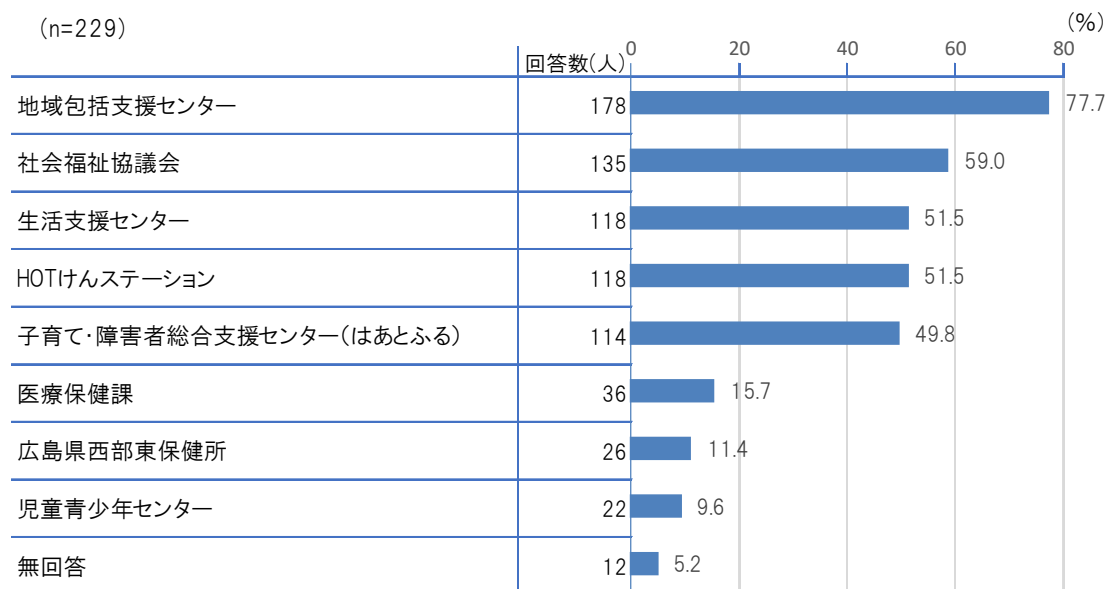
ひきこもり等に関して必要と思われる支援策では、全体で見ると「個別かつ長期的に訪問等でひきこもりの人やその家族に関わることができる支援」が53.3%と最も高く、次いで、「身近なひきこもり相談窓口の設置と周知」(40.2%)、「ひきこもりの人の家族へのサポート」(37.1%)となっています。



ひきこもりについて相談できる機関の認知度

[全員にお聞きします。ひきこもりについて相談ができる機能のある市内の機関として、次の窓口を知っていますか。(複数回答)]

ひきこもりについて相談できる機関の認知度では、全体でみると「地域包括支援センター」が77.7%と最も高く、次いで、「社会福祉協議会」(59.0%)、「生活支援センター」(51.5%)、「HOTけんステーション」(51.5%)となっています。



ひきこもり支援についての意見等

[ひきこもり支援について、課題と感じていることや、ご意見があれば記入してください。(自由記載)]

ひきこもり支援についての感想・意見の中で最も多かったのが、「支援する為の情報を得る難しさがある。」(22件)というものでした。また、「家族からの相談や情報があったら支援しやすい。」(17件)という意見も多く、どのようにして支援につながる情報を入手していくのが課題となります。

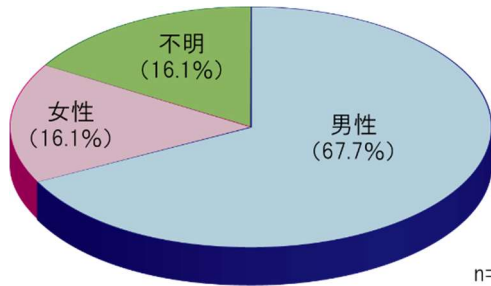
内容	件数
関係者の知識・支援技術に関する意見	
支援する為の情報を得る難しさがある。	22
ひきこもる原因や状況が多様で支援することが困難。	9
支援する側が信頼関係をつくる必要がある。	8
専門的知識がない。(研修が必要)	7
どのように対応したらいいのかわからない。	6
支援へのきっかけをどのようにつくっていくのか悩む。	5
相談への行動を起こす支援が必要。	2
支援をすることの判断に迷うことがある。	2
ひきこもりの正確な定義がわからない。	2
それぞれの状況に寄り添った支援が大切。	1
直接、本人に対しての展望を持たせる具体的で現実的な対策が必要。	1
新しい発想を取り入れた就労指導や支援等で行政がけん引していくこと望む。	1
社会参加できる環境づくりが大切。	1
単独で「ひきこもり宅」を訪問する勇気がない。	1
関わり方に関する意見	
アプローチしにくい。(個人情報や第三者としての立場の問題等で)	14
本人を取りまく周りの人たちのことも十分に受け止めながら取り組むことが大事。 家族へのサポートも大切。	4
家族との対応の仕方が課題。	3
本人もしくは家族の拒否により支援できない。	2
専門の人の訪問があれば、家族が安心して相談するのではないかと思う。	1
現状を家族の人によく聞き、何ができるのか見極める必要がある。	1
長い目で見守ることが大切。	1
早期での対応が必要。	1
「ひきこもりの状況把握を行う。」⇒「ひきこもり家族の方と話し合う。」⇒「本人や家族の希望、障害などを聞き取る。」⇒「ひきこもりの個別対策を検討、実施。」⇒「その後の状況を確認しながら、あせらずフォローを続ける。」の支援が大切。	1
ひきこもりが長期化すると支援者の関係性も希薄になっていくのでは。	1
関係機関へ連絡した場合、民生委員の風当たりが強くなるのではと心配。	1
孤独・孤立に関する意見	
家族及び親戚がどのような社会とのつながりを願うかが問題。	1
地域のつながりも希薄になって相談できる人がいないのが現状。	1
専門の人の訪問があれば、家族が安心して相談するのではないかと思う。	1

内容	件数
支援機関・相談窓口に関する意見	
関係機関や支援をする人の情報の共有や連携の強化が必要。	7
家族が相談できる体制づくりと窓口等の周知が必要。	7
行政及び関係機関の取組が必要。	5
支援機関や公的なサービスの周知が必要。	3
ひきこもりの原因を早期に各関係機関と連携をはかり解決策をはかっていくことが重要。	1
専門の人による相談窓口が必要。	1
社会の理解に関する意見	
家族からの相談や情報があったら支援しやすい。	17
周りの人の学び(ひきこもりに関する知識等)や理解、協力が必要。	14
その他	
その他現状報告	9
家族との接点はあるが、本人に対しては見守っている状況	2
対応はしているものの前進していない。	2
専門の医療機関(心療内科など)を受診して、治療をすることがまず第一にやるべきこと。	1
直接の関与をしていない。	1
ひきこもりの人も辛いと感じて生活しているのではと思う。	1
自立支援の為の受け入れ施設が少ない。	1
地域包括支援センターに相談するが、対応の不備がある。	1

民生委員児童委員 個別調査結果

個別調査に回答いただいた、74人の民生委員児童委員から124件の事例が提供されました。

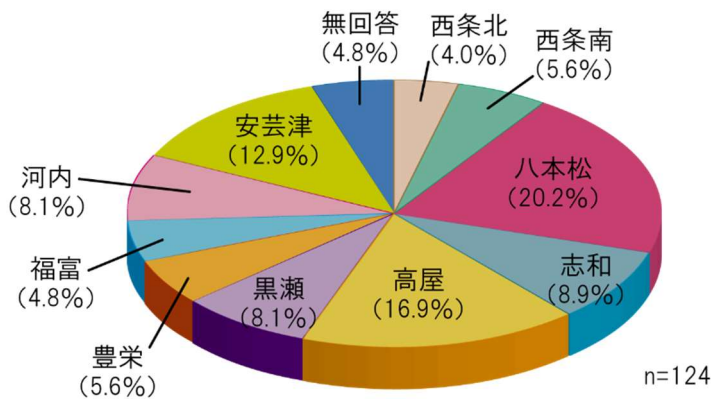
ひきこもりの人の性別



	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
男性	84	67.7
女性	20	16.1
不明	20	16.1

n=124

ひきこもりの人の居住地

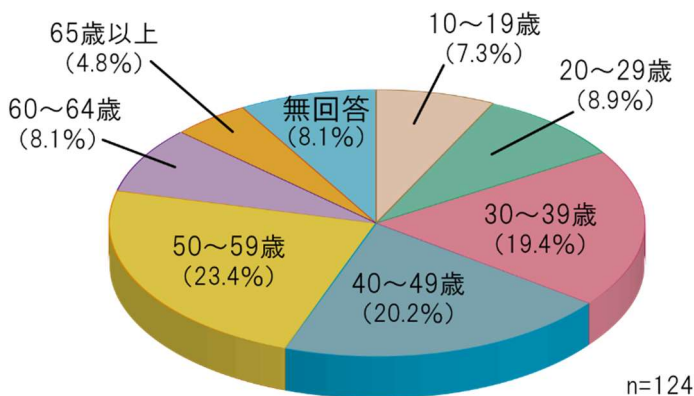


	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
西条北	5	4.0
西条南	7	5.6
八本松	25	20.2
志和	11	8.9
高屋	21	16.9
黒瀬	10	8.1
豊栄	7	5.6
福富	6	4.8
河内	10	8.1
安芸津	16	12.9
無回答	6	4.8

n=124

ひきこもりの人の年齢

全体でみると「50～59歳」が23.4%と最も高く、次いで、「40～49歳」(20.2%)、「30～39歳」(19.4%)となっています。

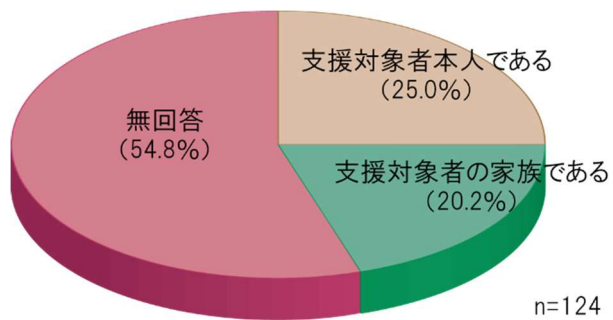


	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
10～19歳	9	7.3
20～29歳	11	8.9
30～39歳	24	19.4
40～49歳	25	20.2
50～59歳	29	23.4
60～64歳	10	8.1
65歳以上	6	4.8
無回答	10	8.1

n=124

ひきこもりの人との業務(活動)上の関係

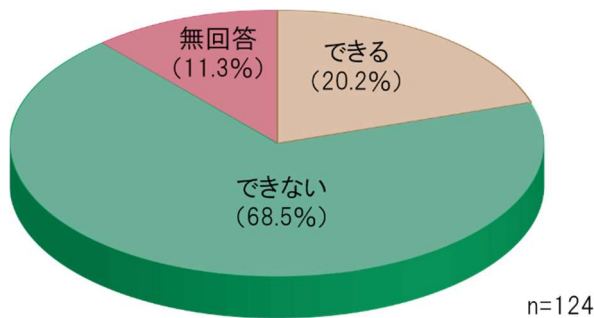
全体で見ると「支援対象者*本人」が25.0%、「支援対象者の家族」が20.2%となっています。
 ※支援対象者とは業務(活動)として関わりを持ち、支援を行う対象となる者(世帯)を言う。



	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
支援対象者本人である	31	25.0
支援対象者の家族である	25	20.2
無回答	68	54.8

ひきこもりの人との直接連絡(訪問・電話・メール・LINE など)の可否

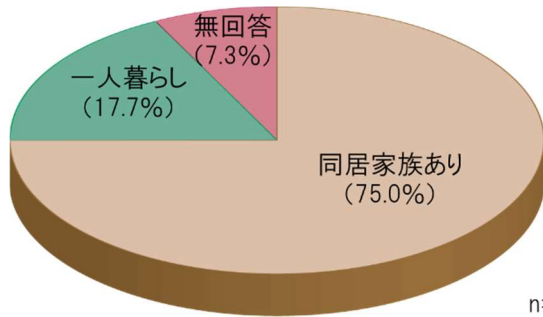
全体で見ると「できる」が25.2%、「できない」が68.5%となっています。



	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
できる	25	20.2
できない	85	68.5
無回答	14	11.3

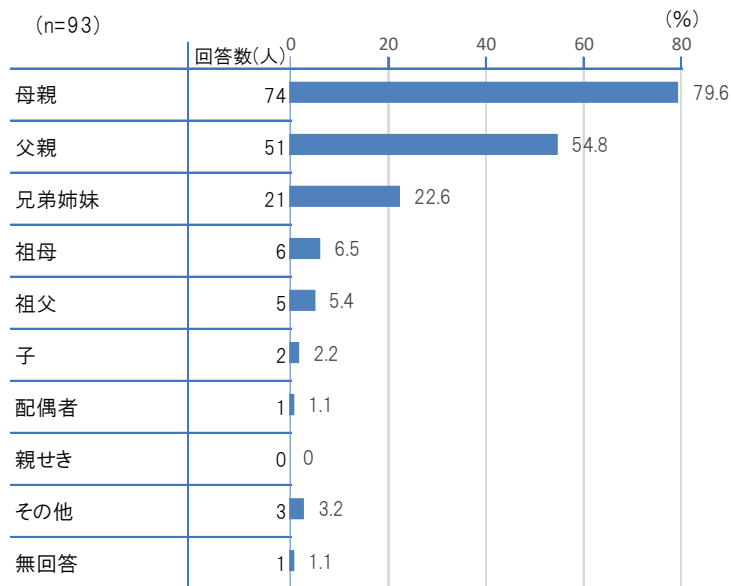
ひきこもりの人の生活状況

全体でみると「同居家族あり」が75.0%、「一人暮らし」が17.7%となっています。



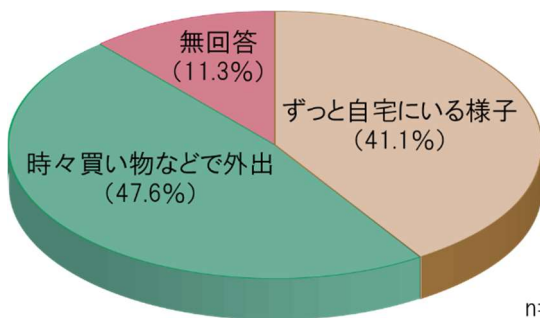
	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
同居家族あり	93	75.0
一人暮らし	22	17.7
無回答	9	7.3

[同居人]



ひきこもりの状況

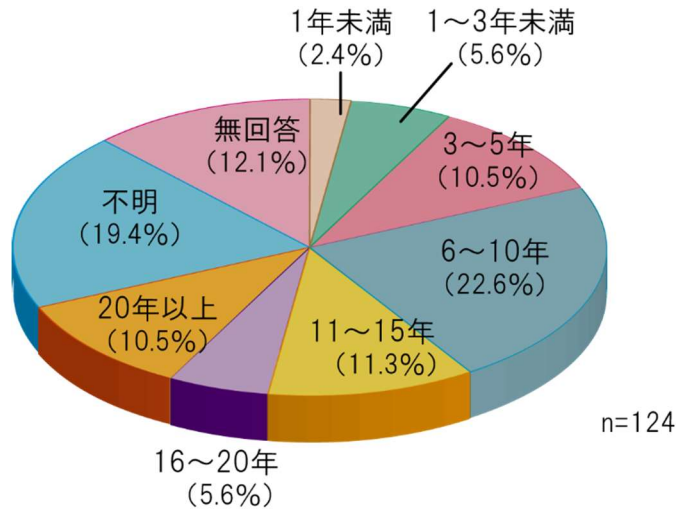
全体でみると「ずっと自宅にいる様子」が41.1%となっています。



	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
ずっと自宅にいる様子	51	41.1
時々買い物などで外出	59	47.6
無回答	14	11.3

ひきこもりの期間

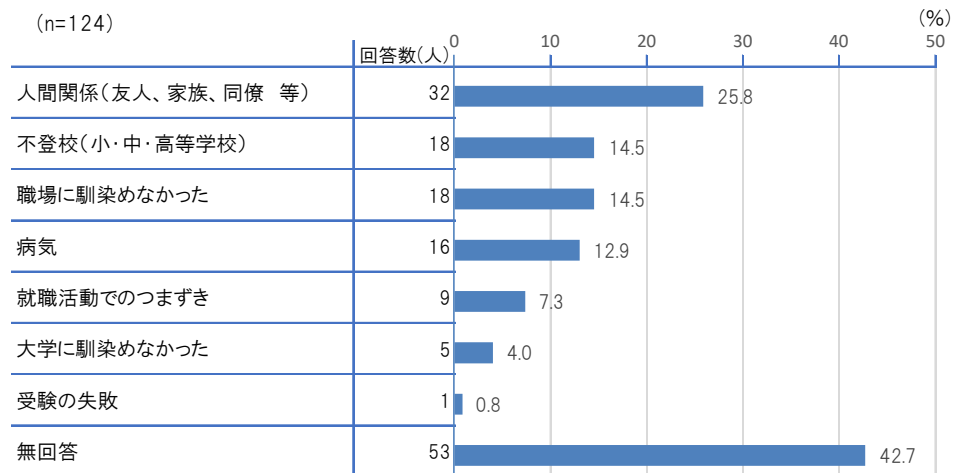
全体でみると「6～10年」が22.6%と最も高く、次いで、「不明」(19.4%)となっています。



	人数(人)	割合(%)
全体	124	100
1年未満	3	2.4
1～3年未満	7	5.6
3～5年	13	10.5
6～10年	28	22.6
11～15年	14	11.3
16～20年	7	5.6
20年以上	13	10.5
不明	24	19.4
無回答	15	12.1

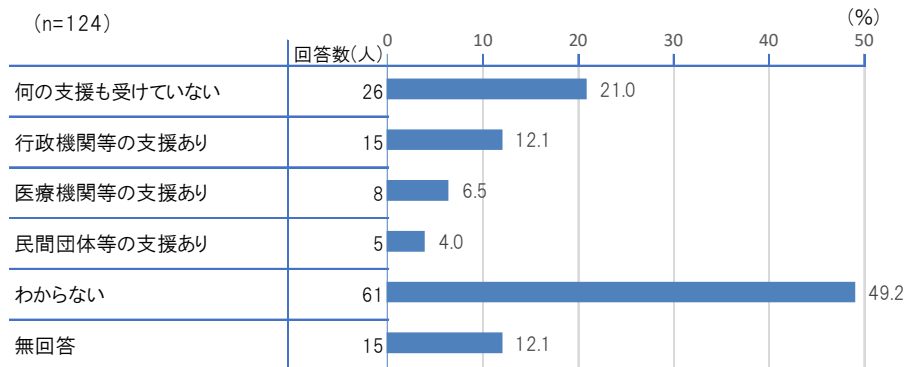
ひきこもりになったきっかけ

全体でみると「人間関係(友人・家族・同僚等)」が25.8%と最も高くなっています。(複数回答)



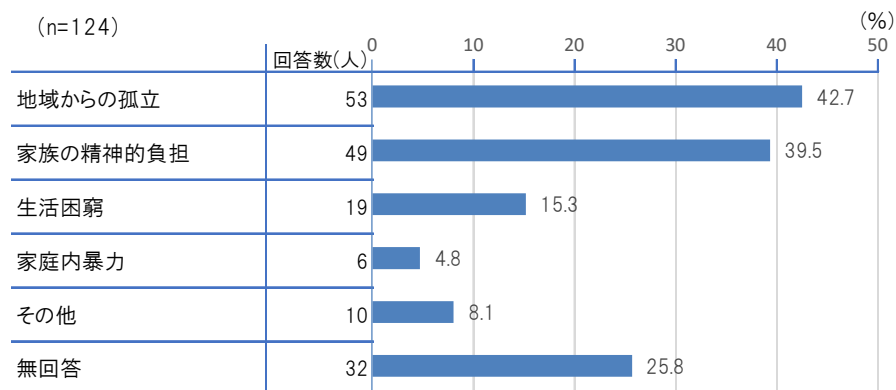
支援状態(現時点)

全体で見ると「わからない」が49.2%と最も高く、次いで、「何の支援も受けていない」(21.0%)、「行政機関等の支援あり」(12.1%)となっています。(複数回答)



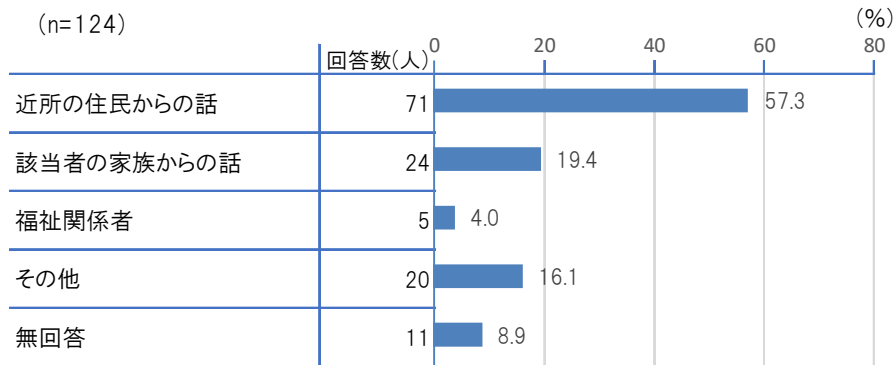
予想される困りごと

全体で見ると「地域からの孤立」が42.7%と最も高く、次いで、「家族の精神的負担」(39.5%)となっています。(複数回答)



ひきこもりの人に関する情報の入手元

全体で見ると「近所の住民からの話」が57.3%と最も高く、次いで、「該当者(ひきこもりの人)の家族からの話」(19.4%)、「その他」(16.1%)となっています。(複数回答)



「その他」の内訳

ひきこもりに関する情報の入手元	人数
民生委員として活動中	7人
日常の生活ぶりから	4人
本人	2人
知り合い	2人
前民生委員	2人
警察沙汰になったから	1人
困りごと相談	1人
近所	1人